

特集 1 この一年を振り返る



ますます元気に、ますます優しく。新しい熊本づくりが進んでいます。

1月から

基幹的道路網の計画・整備が進展



高速道路の九州縦貫自動車道八代〜人吉間の四車線化工事が肥後トンネル区間を除き完成したのをはじめ、南九州西回り自動車道の来春の一部供用に向けての工事や、益城熊本空港インターの建設が着実に進んでいます。一般道についても、国道三五号草部バイパスの完成や、国民体育大会関連道路の整備が進むなど、将来の基幹的な道路網の形成に向け大きく前進しました。

写真は、熊本空港建設路

2月から

三井三池炭鉱閉山対策への取り組み開始



国内最大規模の炭鉱であった三井三池炭鉱の閉山による地域への打撃を最小限に食い止めるため、炭鉱離職者の再就職あっせんや職業訓練、商工業者へのこ入れなど、さまざまな対策事業を緊急実施しました。また、新たな地域づくりに向けて、地元との取り組みへの支援に努めています。

3月4月

県立技術短期大学校、熊本テルサが完成

本県の商工業を担う人材の育成や福祉を進める中核施設として、県立技術短期大学校が開校し、熊本テルサがオープンしました。

6月から

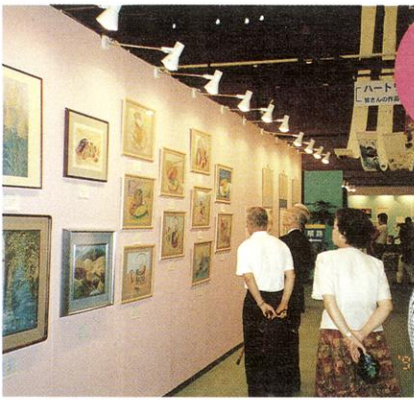
水稲新品種「森のくまさん」生産・販売を開始



県が研究開発したお米の新品種「森のくまさん」の生産・販売が今年から開始されました。コシヒカリとヒノヒカリを交配した品種で、粘り、つやもよく、大変おいしいお米です。今後は、県のブランド米としてさらに普及に努めることにしています。

6月から

「やさしいまちづくり」への取り組み進む



高齢者や障害者をはじめ誰もがいきいきと暮らせる「やさしいまちづくり」を進めるため、「くまもとハートウィークス」、「シニアコンサート」などの催しを開催しました。また、県内の先進的なやさしいまちづくりの取り組みを表彰する「くまもと・やさしいまちづくり表彰」制度を創設し、県民の皆様と一緒に取り組んでいくことにしています。

7月

熊本駅周辺整備等に関する協定を県、熊本市が締結



県と熊本市は、熊本陸の玄関口である熊本駅周辺地域の整備に関して、協定を締結しました。JR唐房島本線等の鉄道高架化と熊本駅周辺地域の整備は、九州新幹線とともに、本県の浮揚のために欠かすことのできない重要な事業です。今後、地元の方々の意向を踏まえながら、熊本市との緊密な連携のもとに、具体的な取り組みを進めることにしています。

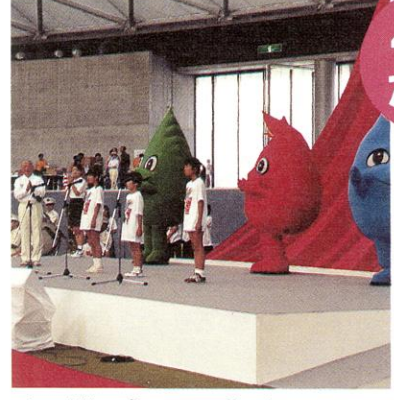


急速に進む技術革新に対応できる実践技術者を育成する県立技術短期大学校は、九州では初めての施設で、第一期生八十二名が入校しました。また、熊本テルサは、勤労者の教養、文化、スポーツ活動等の場として、多くの方々に利用されています。

写真は、県立技術短期大学校

4月から

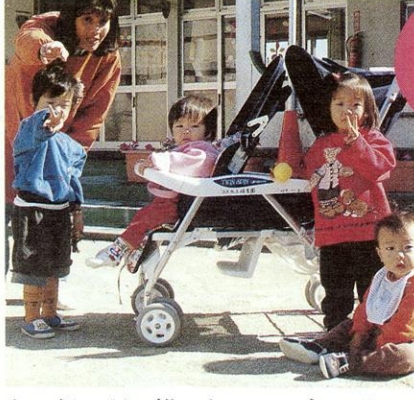
県民総参加のくまもと未来国体を目指し準備が本格化



平成十一年の第五十四回国民体育大会（くまもと未来国体）に向け、全国の方々に温かく迎えるよう県内各地で花いっぱい運動や街をきれいにする運動など県民運動がスタート。九月に県民総参加で開催運を盛り上げようと第一回県民運動推進大会を開催。十一月には九人制男子バレーボールを皮切りにハーフサル大会も始まりました。

5月から

くまもと子どもプラン21の策定と推進



子どもの健全な成長を助け、安心して子どもを生み育てることのできる「子ども・子育て支援社会」の構築を目指して、「くまもと子どもプラン21」を策定しました。今後、関係者の協力を得ながら計画を推進することとしています。また、その一環として、休日などに保育を行うホリデー保育事業を五つの保育園でモデル的にスタートさせました。

7月から

水俣湾の安全宣言が行われ、仕切網が撤去されるなど、水俣病問題が前進



魚介類の安全性が将来にわたって確保できたことを踏まえ、水俣湾の安全宣言を行い、水俣湾の仕切網を撤去しました。また、地域住民の絆を深めることなどを目的とした「もやい直しセンター」の整備が進んだほか、新たなチツソ支援策が国において決定されるなど、水俣病問題はさらに大きな前進を見せました。

8月

牛深ハイヤ大橋が開通



県内最大の漁港、牛深漁港に建設された牛深ハイヤ大橋が開通しました。漁港臨港道路の一部となるもので、橋の長さは八八三メートルと県内でもっとも長い橋です。今後、漁業はもとより、観光面からも地域の活性化に役立つことが期待されています。

9月

東京都との間で有機農産物等の流通協定を締結



東京都との間で「有機農産物等の流通推進に関する基本協定」を締結しました。こうした協定は都道府県レベルでは初めてのことで、今後、大消費地東京を視野に入れた本県有機農産物の流通の拡大が期待されています。なお、本年度はJAあしきたのタマネギと大矢野有機農産物供給センターの温州みかんなどが出荷されます。

5月6月

1997年男子世界ハンドボール選手権大会を開催



熊本では初の世界的スポーツイベントとなった男子世界ハンドボール選手権大会が、パークドーム熊本をはじめ、熊本市、八代市、山鹿市で開催されました。二十四カ国が熱戦を繰り広げ、二十万人の観客や多くのボランティアが大会を盛り上げました。海外マスコミにより熊本の名が世界に発信されました。

6月から

「卓越のムラ」がスタート



また、県民生活の安全を確保する観点から防災や警察行政などの機能を強化するとともに、県民の首脳に親しまれる庁舎を目指して建設を進めて参りました新庁舎も十月から稼働を始めました。今後は、行政改革に積極的に取り組みながら、地域社会の活力を維持発展させ、明るい未来を切り開いていきたいと考えています。来年も、県政の着実な推進のため、新たな気持ちで、精一杯努力して参ります。

9月10月

企業誘致が進展、第二テクノパークの分譲を開始



起業化支援の拠点として建設を進めてきた第二テクノパーク（菊陽町、合志町）の第一期分譲予約申込の受付を開始しました。また、日立造船㈱有明機械工場（長洲町）の竣工をはじめ、半導体製造装置の最大手東京エレクトロン㈱の新工場建設決定（第二テクノパーク内）など、企業誘致の面でも大きな成果をあげました。

11月

第一回漱石来熊百年記念「草枕文学賞」決定



昨年漱石来熊百年を記念して創設した「草枕文学賞」には国内外から八八三編の応募があり、審査の結果、優秀賞に水俣市在住の吉井恵理子さんの「神様が一番近い場所」、入賞にスペイン在住の方の作品を含む五編が選ばれました。多くの皆様から作品に触れていただけるよう、優秀賞受賞作を「文藝春秋」（平成十年二月号）で紹介するほか、受賞作六編をまとめた単行本を発行することにしています。

12月

熊本県環境影響評価要綱を制定へ



熊本の豊かな環境を守るため、県環境審議会が熊本県環境影響評価要綱を知事に答申しました。これは大規模な開発事業を行うにあたって事前に環境アセスメントの実施を求めるものです。地下水保全等の観点から、熊本市とその周辺地域での規模要件を強化しています。本年中に要綱を制定し、来年四月から施行する予定です。

知事室から



熊本県知事 福島 謙二

今年も早いもので師走を迎えました。ペルー日本大使館人質事件という衝撃ききめやらぬ中でスタートした平成九年は、国の行政改革の大きなうねりや経済・金融界の激動など、緊迫した一年でした。

この一年の県政を振り返りますと、国の内外において波乱が続く中、全体として将来に向けての基盤づくりを着実に進めることができた一年であったと思っています。

熊本初の国際的スポーツイベントとして、大成功を収めた男子世界ハンドボール選手権大会は、本県の国際化を進めるうえで大きな力を熊本に生み出しました。水俣病問題では、水俣湾がかつてのきれいな海を取り戻したことが確認され、二十三年ぶりに仕切網を撤去するところにも、国の新たなチツソ支援策の創設にこぎつめるなどの大きな進展がありました。産業面では、高度技術の集積を進めるテクノポリス計画が、第三期計画の策定や第二テクノパークの分譲など新たな段階を迎えました。県立技術短期大学校を開校し、高度な技能や知識を持った実践技術者の育成も始めることができました。産業展示場「グラッセ熊本」も来年四月のオープンに向けて準備が順調に進んでいます。交通基盤の整備も着実に進めることができ、九州新幹線鹿児島ルート建設の見据えた熊本駅周辺整備も熊本市との連携の下でいよいよ動き始めました。

また、県民生活の安全を確保する観点から防災や警察行政などの機能を強化するとともに、県民の首脳に親しまれる庁舎を目指して建設を進めて参りました新庁舎も十月から稼働を始めました。今後は、行政改革に積極的に取り組みながら、地域社会の活力を維持発展させ、明るい未来を切り開いていきたいと考えています。来年も、県政の着実な推進のため、新たな気持ちで、精一杯努力して参ります。

これからは格別な冬を迎えます。健康に留意いただきますとともに、来る年が皆様にとって良い年になりますよう心からお祈りします。